

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月2日

【四半期会計期間】 第57期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 ジェコス株式会社

【英訳名】 GECOSS CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 野 房 喜 幸

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号

【電話番号】 (代表)03 - 3660 - 0777

【事務連絡者氏名】 財務部長 小 谷 智 史

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号

【電話番号】 (代表)03 - 3660 - 0777

【事務連絡者氏名】 財務部長 小 谷 智 史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第56期 第2四半期連結 累計期間	第57期 第2四半期連結 累計期間	第56期
会計期間		自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2023年4月1日 至2023年9月30日	自2022年4月1日 至2023年3月31日
売上高	(百万円)	54,575	61,972	120,521
経常利益	(百万円)	1,817	2,845	4,903
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,188	1,928	3,428
四半期包括利益または包括利益	(百万円)	1,136	2,081	3,240
純資産額	(百万円)	59,837	60,509	59,104
総資産額	(百万円)	102,357	101,884	108,980
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	32.64	57.05	95.05
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	58.5	59.4	54.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	609	274	2,952
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,256	3,853	4,750
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	803	256	3,728
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	6,843	897	4,767

回次		第56期 第2四半期連結 会計期間	第57期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自2022年7月1日 至2022年9月30日	自2023年7月1日 至2023年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	19.19	29.29

- (注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高等の金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動は、以下の通りであります。

### (重仮設事業)

第1四半期連結会計期間において、FUCHI Pte. Ltd.の発行済株式の30%を2023年6月1日に取得し、持分法適用関連会社としております。

この結果、2023年9月30日現在では、当社グループは、当社、子会社6社及び関連会社3社により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。  
また、当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間(2023年4月～2023年9月)におけるわが国経済は緩やかな回復基調にあるものの、先行きは欧米の金融引き締め長期化と円安の定着、および中国経済減速等の懸念により、不透明感が払拭されない状況が続くと見ております。

当社グループの属する建設業界におきましては、需要面では公共投資は堅調で、設備投資も持ち直しの動きがありますが、資材、物流コスト高止まりの影響等により、採算面では依然として厳しい状況が続きました。

このような経営環境のなか、当社グループでは価格適正化を最重点課題に掲げ、採算性向上の取り組みを進めております。当第2四半期連結累計期間においては売上高は61,972百万円(前年同四半期比13.6%増)、営業利益2,632百万円(前年同四半期比64.4%増)、経常利益2,845百万円(前年同四半期比56.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,928百万円(前年同四半期比62.3%増)と、増収増益となりました。

セグメント別に見ますと、重仮設事業におきましては、物件の着工が順調に進み、販売および工事売上が増加したこと等により、売上高は55,932百万円(前年同四半期比14.7%増)、経常利益は2,760百万円(前年同四半期比56.2%増)となりました。また建設機械事業におきましては、保有資産の入れ替えを積極的に進めたことによる資産売却の増に加え売却価格の上昇等があり、売上高は7,197百万円(前年同四半期比3.9%増)、経常利益は250百万円(前年同四半期比23.8%増)となりました。

中期経営計画に掲げた収益目標は下表の通りであり、引き続き目標水準に向けて事業拡大、収益性改善を進めていきます。

#### (2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産については、FUCHI Pte. Ltd.の株式取得により投資有価証券が増加したことに対し、売上債権及び預け金が減少したこと等により前連結会計年度末に比べ7,096百万円減の101,884百万円となりました。負債は、短期借入金が増加したことに対し、仕入債務が減少したこと等により前連結会計年度末に比べ8,501百万円減の41,376百万円となりました。純資産は、利益剰余金の増加等により前連結会計年度末に比べ1,404百万円増の60,509百万円となりました。

なお、中期経営計画に掲げる財務目標は、下表の通りです。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間(2023年4月~2023年9月)における現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末と比べ3,869百万円減少し、897百万円となりました。

なお、各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動では、274百万円の支出(前年同期609百万円の収入)となりました。これは主に減価償却前の税金等調整前四半期純利益4,459百万円を確保し、売上債権の減少による収入が5,686百万円となった一方、仕入債務の減少による支出が7,852百万円、法人税等の支払による支出が1,087百万円及び棚卸資産の増加による支出が605百万円となったこと等によるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動では、3,853百万円の支出(前年同期3,256百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が2,070百万円、FUCHI Pte. Ltd.の株式取得を含む投資有価証券の取得による支出が1,642百万円となったこと等によるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動では、256百万円の収入(前年同期803百万円の支出)となりました。これは主に短期借入金の純増加額が928百万円、配当金の支払額が676百万円になったこと等によるものです。

		中期経営計画 (2024年度目標)	参考	
			2021年度実績	2022年度実績
収益目標 (連結)	売上高	1,400億円	1,140億円	1,205億円
	経常利益	100億円	52億円	49億円
	ROS	7%	4.6%	4.1%
財務目標 (連結)	ROE	10%程度	5.7%	5.8%
	自己資本比率	60%程度	55.2%	54.2%
	D/Eレシオ	実質無借金継続	3.6% (実質無借金)	3.8% (実質無借金)
配当性向(連結)		30%程度	38.3%	36.8%

### (4) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの主要な資金需要は、建設仮設材及び賃貸用建設機械の仕入費用、仮設工事の外注費、各種製品の製作加工費等営業活動に伴う支出ならびに設備投資に伴う支出であります。また、2021年4月に策定した中期経営計画に基づき、事業領域の拡大及び先端技術の導入等に対する投資を推進しています。

必要資金の大半は営業収入により確保し、事業拡大のために増額する投資資金及び一時的に不足する運転資金については金融機関からの借入により調達しています。また、当社及び連結子会社において資金の融通を行い、効率的な資金活用を進めるとともに、資金回収にも十分に留意しています。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	97,500,000
計	97,500,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月2日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	33,795,746	33,795,746	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数100株
計	33,795,746	33,795,746		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日		33,796		4,398		4,596

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所 有株式数の割合 (%)
J F E スチール株式会社	東京都千代田区内幸町二丁目2番3号	16,079	47.58
J F E 商事株式会社	東京都千代田区大手町一丁目9番5号	2,965	8.77
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,684	4.98
ジェコス取引先持株会	東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号	1,023	3.03
株式会社日本カストディ銀行(信 託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	865	2.56
ジェコス社員持株会	東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号	732	2.17
J F E 商事資機材販売株式会社	東京都千代田区大手町二丁目2番1号	523	1.55
J F E 商事コイルセンター株式 会社	神奈川県横浜市金沢区鳥浜町七番地	511	1.51
株式会社日本カストディ銀行(信 託口4)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	502	1.49
乗松 真也	東京都江東区	327	0.97
計		25,212	74.60

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)、株式会社日本カストディ銀行(信託口)、株式会社日本カストディ銀行(信託口4)の所有株式は、信託業務に係るものであります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 33,747,000	337,470	
単元未満株式	普通株式 48,246		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	33,795,746		
総株主の議決権		337,470	

(注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式及び「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ1,500株(議決権15個)及び9株含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ジェコス株式会社	東京都中央区日本橋 浜町二丁目31番1号	500		500	0.00
計		500		500	0.00

(注) 上記「自己株式等」は、全て当社保有の自己株式であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,267	897
受取手形及び売掛金	32,062	<sup>2</sup> 29,450
電子記録債権	10,696	<sup>2</sup> 7,639
建設仮設材	21,072	20,978
商品	2,245	2,459
製品	897	1,095
仕掛品	978	1,260
原材料及び貯蔵品	896	892
預け金	3,500	-
その他	307	367
貸倒引当金	28	26
流動資産合計	73,892	65,011
固定資産		
有形固定資産		
賃貸用建設機械（純額）	5,380	4,831
建物及び構築物（純額）	3,604	3,533
土地	12,749	12,741
その他（純額）	2,728	2,760
有形固定資産合計	24,460	23,865
無形固定資産		
のれん	1,192	1,128
その他	1,190	1,094
無形固定資産合計	2,382	2,221
投資その他の資産		
投資有価証券	3,719	5,743
退職給付に係る資産	3,187	3,235
その他	1,462	1,927
貸倒引当金	121	118
投資その他の資産合計	8,246	10,787
固定資産合計	35,088	36,873
資産合計	108,980	101,884

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,266	2 19,611
電子記録債務	14,460	2 7,175
短期借入金	520	1,399
未払法人税等	1,156	849
賞与引当金	1,085	1,042
引当金	185	162
その他	6,265	6,040
流動負債合計	44,937	36,277
固定負債		
長期借入金	1,725	1,777
再評価に係る繰延税金負債	1,578	1,578
引当金	109	105
退職給付に係る負債	533	486
その他	995	1,152
固定負債合計	4,939	5,099
負債合計	49,876	41,376
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,398	4,398
資本剰余金	4,592	4,592
利益剰余金	49,460	50,712
自己株式	0	1
株主資本合計	58,449	59,701
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,146	1,334
土地再評価差額金	1,000	1,000
為替換算調整勘定	14	25
退職給付に係る調整累計額	492	445
その他の包括利益累計額合計	651	803
非支配株主持分	3	4
純資産合計	59,104	60,509
負債純資産合計	108,980	101,884

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	54,575	61,972
売上原価	45,450	51,573
売上総利益	9,125	10,399
販売費及び一般管理費	1 7,524	1 7,767
営業利益	1,601	2,632
営業外収益		
受取利息	2	6
受取配当金	50	52
持分法による投資利益	149	115
その他	23	53
営業外収益合計	224	226
営業外費用		
支払利息	7	10
その他	2	4
営業外費用合計	8	13
経常利益	1,817	2,845
税金等調整前四半期純利益	1,817	2,845
法人税、住民税及び事業税	288	805
法人税等調整額	341	112
法人税等合計	629	917
四半期純利益	1,188	1,928
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,188	1,928

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	1,188	1,928
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31	188
為替換算調整勘定	15	11
退職給付に係る調整額	98	47
その他の包括利益合計	52	152
四半期包括利益	1,136	2,081
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,136	2,080
非支配株主に係る四半期包括利益	0	1

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,817	2,845
減価償却費	1,503	1,615
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	6
賞与引当金の増減額(は減少)	59	43
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	82	48
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	59	47
退職給付費用	141	67
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	162	4
受取利息及び受取配当金	52	58
支払利息	7	10
持分法による投資損益(は益)	149	115
固定資産処分損益(は益)	1	16
売上債権の増減額(は増加)	5,185	5,686
棚卸資産の増減額(は増加)	259	605
仕入債務の増減額(は減少)	5,405	7,852
為替差損益(は益)	0	15
その他	859	514
小計	1,406	766
利息及び配当金の受取額	54	56
利息の支払額	7	10
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	844	1,087
営業活動によるキャッシュ・フロー	609	274
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1,290	2,070
有形固定資産の売却による収入	198	463
投資有価証券の取得による支出	2	1,642
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2,049	-
その他	112	604
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,256	3,853
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	928
長期借入れによる収入	-	90
長期借入金の返済による支出	75	87
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	728	676
財務活動によるキャッシュ・フロー	803	256
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	2
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,443	3,869
現金及び現金同等物の期首残高	10,286	4,767
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,843	897

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
(持分法適用の範囲の重要な変更) 第1四半期連結会計期間において、FUCHI Pte. Ltd.の発行済株式の30%を2023年6月1日に取得し、持分法適用関連会社としたため、同社を持分法適用の範囲に含めております。

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
「電子記録移転有価証券表示権利等の発行及び保有の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第43号 2022年8月26日。以下「本実務対応報告」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号。)第1条第4項第17号に規定される「電子記録移転有価証券表示権利等」を発行又は保有する場合の会計処理及び開示に関する取扱いに従って、本実務対応報告が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。この適用による連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形裏書譲渡高

前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
55百万円	52百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理は、満期日に決済されたものとして処理しております。

当第2四半期連結会計期間末日(金融機関休業日)が満期日にあたり同日決済されたものとして処理した満期手形等の金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形	- 百万円	268百万円
電子記録債権	-	503
支払手形	-	272
電子記録債務	-	1,234

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
給与諸手当	2,564百万円	2,664百万円
賞与引当金繰入額	902	927
退職給付費用	23	79

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金	1,443百万円	897百万円
預け金	5,400	-
現金及び現金同等物	6,843	897

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月23日 定時株主総会	普通株式	728	利益剰余金	20	2022年3月31日	2022年6月24日

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年10月27日 取締役会	普通株式	546	利益剰余金	15	2022年9月30日	2022年12月1日

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年6月22日 定時株主総会	普通株式	676	利益剰余金	20	2023年3月31日	2023年6月23日

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年10月31日 取締役会	普通株式	575	利益剰余金	17	2023年9月30日	2023年12月1日



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	重仮設	建設機械	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	48,247	6,328	54,575	-	54,575
セグメント間の内部売上高 又は振替高	507	597	1,104	1,104	-
計	48,754	6,925	55,679	1,104	54,575
セグメント利益	1,767	202	1,968	151	1,817

(注) 1 セグメント利益の調整額は、連結調整 151百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社オトワコーエイを連結の範囲に含めたことにより、重仮設事業セグメントにおいて、のれんの金額に重要な変動が生じております。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては1,289百万円であります。なお、のれんの増加額は、第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行ってりましたが、当第2四半期連結会計期間に確定しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	重仮設	建設機械	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	55,313	6,659	61,972	-	61,972
セグメント間の内部売上高 又は振替高	619	538	1,157	1,157	-
計	55,932	7,197	63,129	1,157	61,972
セグメント利益	2,760	250	3,009	164	2,845

(注) 1 セグメント利益の調整額は、連結調整 164百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

各セグメントの収益の分解情報とセグメント情報に記載した「外部顧客への売上高」との関係は以下の通りであります。

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	重仮設	建設機械	計
一時点で移転される財及びサービス	32,841	2,333	35,174
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	15,406	3,995	19,401
顧客との契約から生じる収益	48,247	6,328	54,575
その他の収益	-	-	-
外部顧客への売上高	48,247	6,328	54,575

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	重仮設	建設機械	計
一時点で移転される財及びサービス	36,387	2,521	38,908
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	18,927	4,138	23,065
顧客との契約から生じる収益	55,313	6,659	61,972
その他の収益	-	-	-
外部顧客への売上高	55,313	6,659	61,972

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	32円64銭	57円05銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,188	1,928
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,188	1,928
普通株式の期中平均株式数(千株)	36,396	33,795

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

2023年10月31日開催の取締役会において、定款第38条の規定に基づき、2023年9月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当)を次のとおり行う旨決議いたしました。

中間配当による配当金の総額	575百万円
1株当たりの金額	17円
支払請求の効力発生日及び支払開始日	2023年12月1日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月2日

ジェコス株式会社  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉 田 哲 也

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 脇 本 恵 一

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているジェコス株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ジェコス株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められな

いかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。